

# マリンレスキュー MONOギャラリー

知識は時に、救助活動の成否を左右します。だからこそ知っておきたい、資器材の種類や現状。  
今回は海上保安庁の特殊救難基地が保有する船上火災発生時に使用される「火災対応器材」および「検知器材」をご紹介しますとともに、その取り扱いや消火の訓練シーンをお伝えします。

## 器材紹介



### 赤外線直視装置

煙などで視界の悪い場所でも、熱を画像に代えることで要救助者や火点を見つけることができます。



### ガス検知器(小型)

酸素、硫化水素、一酸化炭素、可燃性ガスの濃度を測定することができます。



### 接触温度計

固形・液体物質の温度を測ることができます。



### ガス検知器

酸素、硫化水素、一酸化炭素、可燃性ガスの濃度を測定することができます。



### 検知器

空中に浮遊している有害物質などの量を量ることができます。



### 空気呼吸器

酸素がない場所や、有害物質が充満している空間でも、呼吸することができます。

## 消火訓練



### 消火訓練①

炎上している室内への進入準備をしています。厳しい条件下で訓練を行うため、あえて空気呼吸器は装着していません。



### 消火訓練②

グレーチングの下に漏れた油が燃えています。炎の高さは時に、隊員の背よりも高くなることもあります。



### 消火訓練③

消火後、目視や赤外線直視装置を使用して、鎮火確認をします。壁や天井の温度が高く、放出した水が、水蒸気と変化したために、視界が悪くなっています。

## 器材の取り扱い



検知器を使用して、物質の濃度を測定しています。隊員の着ている防護衣は、外の気体が入らないようになっています。

### 【参考】

完全に外界と遮断しているため、防護衣の中は非常に暑くなり、訓練後は体重が2~3kg減少することもあります。



防火衣と空気呼吸器を装着して、ヘリコプターから船に降下中です。

### 【参考】

背中の空気呼吸器は重いので、空中では体勢を崩さないように注意が必要です。



要救助者の搬送訓練中です。煙などで視界が確保できない状況を再現するために、面体の前にカバーをかけています。



防火衣と空気呼吸器を装着しての進入状況です。また、ガス検知器、防爆ライト、進入用ロープ、赤外線直視装置を携行しています。

### 【参考】

このような器材一式を携行すると、その合計重量は30kgを超えます。